

心の原風景 —我が母校—

佐渡市立松ヶ崎小・中学校

平成24年度から小中連携校となりました。松ヶ崎小学校の校舎に中学校棟を増築し、小中学生が一緒に学校生活を送っています。小学生は14人、中学生は6人、計20人の学校です。これまでの松ヶ崎小・中学校の伝統ある行事を引継ぎ、連携校のよさを生かしながら、特色ある教育活動を行っています。

4月の入学式は、小中合同で行っています。小学1年生、中学1年生が一緒になって入場し、校歌も中学校それぞれ校歌を歌います。全校児童生徒、職員、地域の方が温かく迎えています。

6月には、松ヶ崎地区連合運動会が行われます。小中学生混合の種目もあります。運動会当日は、地域の方々から小中学生、保育園児まで参加し、



松ヶ崎地区連合運動会

学校規模を感じさせない賑わいとなります。

11月には、文化祭が行われます。

午前は小学校、午後は中学校の学習発表会、一日を通して作品展やバザーが行われます。全校児童生徒、保護者、職員が一体となって文化祭を作り上げています。



第84回遠泳大会

今年度からの取組として、小中合同で各種大会に向けた激励会を行っています。全校の児童生徒で選手を応援し、これまで以上に盛り上がった選手激励会となっています。

また、松ヶ崎小学校の84回も続く遠泳大会、松ヶ崎中学校の60年以上も行っている学校林作業もあります。これまでと同様に地域密着型の学校行事として、保護者や地域の協力を得ながら継続して行っています。連携校として2年目になり、新たな歴史が刻まれています。それぞれの学校の特色が混じり合い、「きらりと光る松ヶ崎連携校」となるよう、教育活動を進めていきます。

◆教育委員会学校教育課
(両津支所内) ☎23-4898



佐渡ジオパーク

佐渡ジオパークを「見る・食べる・学ぶ」

平成25年11月に、日本ジオパークの認定を記念した講演会を開催したところ170人を超える方々にお集まりいただき、ありがとうございました。

講師の日本ジオパーク委員会の尾池和夫委員長は、佐渡を訪れるのが初めてということで、講演の前に相川や小木半島など島内のジオサイトを視察しました。その中で、尾池委員長の目に留まったのが、元小木集落で野菜や衣類などを洗うのに使っている洗い場です。

湧水を利用しているこの洗い場の脇には、溶岩が海中に流れ出て冷やされて固まってできた「枕状溶岩」と呼ばれる岩が広がっています。尾池委員長が洗い場へいくと、ちょうど、地元の方が大根を洗っていました。大根を洗う人の傍らに寄り添う枕状溶岩という光景を、微笑ましく尾池委員長は眺めていました。

視察を終え、夕方から始まった講演会では、尾池委員長の前で



元小木集落の洗い場を訪れる尾池委員長

ジオパーク、推進日記

33

もある地震のメカニズムの話や、謎が詰まった佐渡ジオパークが世界の研究者たちにも注目される島になる可能性などについて話が広がりました。尾池委員長は、「約1600万年前に誕生した日本海は、現段階において世界で最も若い海です。その若い海に浮かぶ佐渡島で展開される『佐渡ジオパーク』では、住民が身近にある貴重な宝に気づき、自分の言葉で誇りを持って発信し続けてほしい。」と期待を寄せていました。

尾池委員長は著書「四季の地球科学・日本列島の時空を歩く」(岩波新書)の中で、ジオパークの本質は、地質学だけではなく、大地の科学、生態系、愉しむ場の3つが揃っていることが大事であるとし、「見る・食べる・学ぶ」という言葉でジオパークを表現しています。

佐渡では、どんな風に「見る・食べる・学ぶ」ことができるのか、それを実現できるのは、島に住み、島の特性を常に肌で感じている住民の皆さんなのです。提案や意見を交わしながら一歩一歩、ジオパークを作っていきます。

◆教育委員会社会教育課ジオパーク推進室 (両津郷土博物館内)

☎23-2101